

IAEA レビュー

(議事要旨)

1. 日時 平成24年1月27日(金) 10:00~
2. 場所 経済産業省 別館 1038号会議室
3. 出席者(控え席)
 - NISA: 浦野、杉原、名倉
 - JNES: [REDACTED]
 - IAEA: Mr. Chuck Casto, Mr. Ovidiu Coman
4. 議事要旨
 - コーマン: 大変な努力していただき感謝を申し上げる。現地調査が行えたことにも感謝申し上げる。これまでの議論で得られた情報を、私の方でまとめさせていただきたい。
皆さんか、どのようなことを言ってきたかよくわかった。関西電力からの回答についてもよくわかった。プラントの耐地震、耐津波についての対策について、積極的に取り込んでいることが、よくわかった。IAEAとしては、プラントは安全であるという証明を出すことはできないが、安全について改善が行われていることのエビデンスを確認することができた。STの耐震の部分については、改定耐震指針にそって行われていることが分かった。また、耐震 BC を行うことによって、改善、対策が行われているものと思う。
一方、安全解析の目的は、設計の中に設備の頑健性をいかに持たせるか、耐震安全裕度がどのくらいあるかを確認することである。設計を超えたところで、どの程度安全裕度があるか確認するものである。ここで、安全裕度の評価手法であるが、世界の原子力産業は、すでに過去20数年で証明された手法を使っている。手法として2つある。1つ目は決定論的な手法で安全裕度を算出する方法、2つ目は確率論的手法である。ここで、現実的な耐力の定義の方法が保安院の手法と違うわけです。ここが国際的な違いです、耐力に関して決定論的に評価した場合、我々としては信頼度が分からず。国際的な方法を使うことによって、耐震裕度の信頼性のレベルが向上し、世界のプラントとの比較ができる。規制機関として、国際的な基準を採用するべく推奨したいというのが提言です。

(上記説明の後、専門的な内容に係る議論は特に無く終了。)